



# がっこう 学校だより

よこはましりついできた  
横浜市立飯田北いちよう小学校  
へいせい ねん  
平成27年 5月号  
がっ につはっこう  
4月30日発行

## しんりよく ごがっ 新緑の五月

かぜかお ごがっ そら こい げんき およ きせつ にゆうがくしき  
風薫る五月の空に鯉のぼりが元気よく泳ぐ季節になりました。入学式  
しぎょうしき やくひとつき た こ あたら かんきょう すこ な  
・始業式から約一月が経ち、子どもたちは新しい環境に少し慣れてきた  
ようです。国語や算数といった学習をはじめ学校のいろいろな活動に進  
んで取り組み、毎日の活動を通して、一人ひとりの子どもの思いや願い  
が叶うよう、教職員も一緒になって頑張っています。



さて、四月の下旬から五月の初旬にかけて、ゴールデンウィーク  
わせいえいご よ おおがたれんきゅう ことし どにち ふく これんきゅう たの  
(和製英語 Golden Week, GW)と呼ばれる大型連休があります。今年は土日を含めて五連休になり、楽  
しい計画を立てている方もいらっしゃると思います。この祝祭日には趣旨があることを、過日の  
ちょうかい こ かんたん はな くわ はったつだんかい あ かく はな  
朝会で子どもたちに簡単にお話しました。詳しくは、発達段階に合わせて、各クラスでお話をし  
ました。

## たんど せつく ひ 「端午の節句」から「こどもの日」へ



ごがついつか ひ ほうりつ じんかく おも  
五月五日は「こどもの日」です。法律でも「こどもの人格を重んじ、こ  
ころふく はは かんしゃ しめ いっぽう  
どもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」ことが示されています。一方、  
にほん れきし ひもと たんど せつく なら じだい つづ ぎょうじ  
日本の歴史を紐解いてみると、「端午の節句」として、奈良時代から続く行事  
で、男子の健やかな成長を祈願し各種の行事を行う風習がありました。  
だんし すこ せいちょう きがん かくしゅ ぎょうじ おこな ふうしゅう  
江戸時代以降は「男子の節句」とされ、身を守る「鎧」や「兜」を飾り、  
えどじだいごう だんし せつく み まも よろい かぶと かざ  
「こいのぼり」を立てて男子の成長や立身出世を願ってお祝いをするよ  
うになりました。また、初節句（男の子が生まれて初めての節句）にはちまきを、二年目からは新  
はつぜつく おとこ こ う はじ せつく にねんめ あたら  
しい芽がでるまで古い葉を落とさない事から「家督が途絶えない」縁起物として「柏餅」を食べ  
るようになったそうです。

かつては、「男の節句」とされていたので、鎧や兜はお父さんやおじいちゃんが飾るのが習わ  
しでしたが、現在では特にこだわる必要はないそうです。四月中旬までには飾りの準備を終わら  
せ、お祝いする家庭が増えたそうです。また、今でも「強い香気による厄払い」という意味が込  
められた「菖蒲湯」には性別年齢関係なく入浴しています。